

車いすでの避難 けん引装置活用

鳥羽のNPO 津波訓練で実証

「少ない力で移動可」

車いすでの避難 けん引装置活用

【鳥羽】鳥羽市のNPO法人伊勢志摩バリアフリーツアースタッフ(野口あゆみ事務局長)は、十七、十八日に鳥羽、伊勢両市が実施した津波一斉避難訓練で、ボランティア十四人と共に、車いすにけん引補助装置を取り付けた避難訓練を試みた。

同センターは、三年前からバリアフリーの防災訓練に取り組み、今までも歩行が困難な人を背負って避難するなど、さまざまな試みを進めてきた。今回、両市の津波を想定した高台避難訓練では、長野県の会社が試

作検証している、けん引式車いす補助装置「じんりき」を使い、災害時要援護者と訓練に参加した。「じんりき」は、既存の車いすに「コ」の字型になるよう専用のけん引バーを取り付け、移動時にバーを持つと車いすの前輪が浮く仕組み。引く時には人力車やリヤカーのように後輪だけを使うので少ない力で介助ができ、段差や砂利道でも走行できる。伊勢市の訓練では、約二・五キロを二十五分で高台まで避難し、がれきを想定した場所でも実証した。

鳥羽のNPO 津波訓練で実証

段差がある場所で、補助装置を取り付けた車いすを引っ張る避難訓練の参加者。伊勢市二見町内で



「少ない力で移動可」

車いす利用者は「介助者に坂道を後ろから押しもらうと、前に倒れそうで怖いけど、今回は前に人がいるので安心できる」と話していた。野口事務局長は「段差移動で車いすの前輪が上がった状態になるので少ない力で移動でき、小回りも効く」と話し、要援護者への新たな取り組みに手応えを感じていた。